

② 建築デザイン実習Ⅰ					
担当教員	野口 信彦		実務授業の有無	○	
対象学科	建築デザイン科	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	48時間
授業概要、目的、授業の進め方	BIMソフトで、簡単なモデリングができるようにします。建築空間の表現・伝達に必須知識・技術を、学ぶ実習 1. 渡学一実習・実習一実習と解説を繰り返して行い習得レベル差ごとの指導も適宜行う。 2. BIMソフトの基本操作を中心に見方、抜き方を解説・実習する。 3. 条件に則したモデリング制作の進め方の基本を理解する。 4. 最終的には、木造住宅の製図、モデリングを作成し、評価、解説を行う				
学習目標 (到達目標)	BIMソフト(Autodesk Revit)の操作について学びます。Revitの操作だけでなく、AutoCADとの連携もあわせて、簡単なオリジナルモデルのモデリングができるようにします				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	①はじめての Autodesk Revit LT /プリント				
NO.	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	1-REVITの基本操作を学ぶ。 ① 基本設計 ・モデリング ② プレゼンテーション ・マテリアル ・方向、場所、支援の設定 ・パースとウォークスルー ・レンダリング ③ 図面作成 ・各種図面の作成 ④ ファミリの作成	方法：テキストに依り、解説、演習～課題を行う。 集合住宅のモデリングを行いながら、REVITの基本操作を段階的に習得し作品を制作する。 ① テキストを参照しながら、基本的なモデリングができるようにする。 ② テキストに依り、マッピングのやり方や敷地、方位等の設定ができるようにする。 ③ 外観パース、内観パース、ウォークスルー、レンダリングを行うことが出来るようにする。 ④ モデリングしたデータから各種、2次元図面を作成することが出来るようにする。 ⑤ 簡単なファミリを作成することが出来るようにする。 準備学習：教科書、プリントに示されている練習課題の学習と練習			
2	木造2階建て住宅のモデリング ①簡単な木造住宅のモデリング。	方法：テキストに依り、解説、演習～課題を行う。 木造2階建て住宅のモデリングを行いながら、REVITの基本操作で木造住宅のモデリング作品を制作する。一定の条件と正しい操作方法で作成できている。 準備学習：教科書、プリントに示されている練習課題の学習と練習			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
必須提出課題の点数に加え、通常の授業態度などを加味して総合的に判断します。 課題評価60%、授業態度10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(50点以下)とする。		建築製図の基礎でもある住宅モデリング課題とREVITの基本操作で習得しなくてはなりません。 建築士試験に対応できる知識と技術を身につけるため、基本を固め、演習を繰り返すことにつけてスキルを上げていく。個人作業が主体で、レベル差が出やすいので、適宜個人指導も行う。			
実務経験教員の経験 設計事務所にて設計業務に11年					

② 建築デザイン実習Ⅰ					
担当教員	野口 信彦		実務授業の有無	○	
対象学科	建築デザイン科	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	48時間
授業概要、目的、授業の進め方	BIMソフトで、簡単なモデリングができるようにします。建築空間の表現・伝達に必須知識・技術を、学ぶ実習 1. 渡学一実習・実習一実習と解説を繰り返して行い習得レベル差ごとの指導も適宜行う。 2. BIMソフトの応用操作を中心に見方、抜き方を解説・実習する。 3. 条件に則したモデリング制作の進め方の基本を理解する。 4. 最終的には、オリジナル住宅のモデリングを作成し、評価、解説を行う				
学習目標 (到達目標)	①前期の住宅計画演習で作成したオリジナルプランのモデリングとシートへの書き出しを行います。②建築設計実習ⅠのプランニングをもとにREVITでのモデリング(または模型)の制作を行い、作品として仕上げます。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	プリント等				
NO.	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	立地状況に変わる情報 オリジナル住宅プランの立地情報の決定 ①各種レベルの確定 ・基礎、・玄関ポーチ、・1F L、2F L、 ・軒高、・開口部高さ、天高、屋根形状)	方法：テキストに依り、解説、演習～課題を行う。 集合住宅のモデリングを行いながら、REVITの基本操作を段階的に習得し作品を制作する。 ① テキストを参照しながら、基本的なモデリングができるようにする。 ② テキストに依り、マッピングのやり方や敷地、方位等の設定ができるようにする。 ③ 外観パース、内観パース、ウォークスルー、レンダリングを行うことが出来るようにする。 準備学習：教科書、プリントに示されている練習課題の学習と練習			
2	2 モデリング ① 壁や柱の新規作成練習 ・標準で準備されていない壁や柱の作成方法 ② 作図準備(下書き) ・敷地や道路、通り筋などの下書きをCADで起こす。 ③ 建物のモデリング ・オリジナル住宅のモデリングを実施 ④ 外観 ・外観や植栽などを作成する ⑤ シートへの書き出し ・各図面をシートに書き出す(図面枠(A2)の作成) ・配置図 平面図 立面図 断面図 ・外観パース 内観パース ⑥ 印刷 ・A2で作図したものをA3で縮小印刷	方法：テキストに依り、解説、演習～課題を行う。 オリジナル住宅のモデリングを行いながら、REVITの基本操作で木造住宅のモデリング作品を制作する。 ②テキストに依り、マッピングのやり方や敷地、方位等の設定ができるようにする。 ③外観パース、内観パース、ウォークスルー、レンダリングを行うことが出来るようにする。 一定の条件と正しい操作方法で作成できている 準備学習：教科書、プリントに示されている練習課題の学習と練習			
3	作品のまとめ ①建築設計実習Ⅰのプランニングをもとにモデリングから仕上げまでを行う。	建築設計実習Ⅰのプランニングに基づき作品のモデリングから仕上げまでを行う。			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
必須提出課題の点数に加え、通常の授業態度などを加味して総合的に判断します。 課題評価60%、期限内での提出30%、授業態度10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(50点以下)とする。		前期に学んだ住宅モデリング課題とREVITの基本操作で習得しなくてはなりません。 建築士試験に対応できる知識と技術を身につけるため、基本を固め、演習を繰り返すことにつけてスキルを上げていく。個人作業が主体で、レベル差が出やすいので、適宜個人指導も行う。 課題の評価はプレゼンを行い他人からの評価も加味する。			
実務経験教員の経験 設計事務所にて設計業務に11年					

② 建築デザイン実習Ⅱ					
担当教員	野口 信彦		実務授業の有無	○	
対象学科	建築デザイン科	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	48時間
授業概要、目的、授業の進め方	SKETCHUPで、簡単なモデリングができるようにし、建築空間の表現・伝達に必須知識・技術を、学ぶ実習。また、同時にREVIT ARCHITECTURE ユーザー 試験の対策も行う 1. 渡学一実習・実習一実習と解説を繰り返して行い習得レベル差ごとの指導も適宜行う。 2. 条件に則した設計の進め方の再確認させる。 3. 1年次に作成したオリジナル住宅の作品にSKETCHUPを用いて完成させ、評価、解説を行う				
学習目標 (到達目標)	・REVIT ARCHITECTURE ユーザー 試験の合格を目指す。 ・SKETCHUPの操作方法を学び、オリジナルの作品作りにも活用できるようにする。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	オートデスク認定資格プログラム 試験対策/配布資料				
NO.	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	REVIT ARCHITECTURE ユーザー 試験 ①模範対策	模範取得を目的とした対策を行う。練習問題・模範問題を繰り返しつつ、弱点に対し、個人的に指導を行う。 準備学習：テキストを見ながら、自宅でのPC操作を復習・練習する。			
2	Sketch UP の操作方法を習得する。 ・配布資料に依り操作方法を学ぶ。	方法：操作方法の説明と解説し、練習課題の実習。 図面や画像の活用理解できている。 準備学習：テキストを見ながら、自宅でのPC操作を練習する。			
3	Sketch UP を用いた作品を仕上げます。 (1年次に作成した「オリジナル住宅」のモデリング) ①2次元データ作成 ・CADで平面図、立面図を作成する。 ②モデリング ・モデリング実施 ③マッピング ・マテリアルを設定する。 ④画像データとして出力	方法：テキストに依り、解説、演習～課題を行う。 1年次に制作したオリジナル住宅のモデリングをベースにSKETCHUPを用いて制作・完成させる。 一定の条件と正しい操作方法で作成できている。 準備学習：教科書、プリントに示されている練習課題の学習と練習			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
チラシ作成課題の課題評価点数に加え、通常の授業態度などを加味して総合的に判断します。 REVIT合格者30%、課題評価50% 卒業率10% 締切厳守 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(50点以下)とする。		2年間の集大成として、しっかりと取り組ませる。 テーマや、コンセプトについては必ず、担当教員との話し合いで決定させ、情報精度を上げて精度を高める。 個人作業になるため、進捗管理と個人指導等、スケジュール管理に留意する。 課題の評価はプレゼンを行い他人からの評価も加味する。			
実務経験教員の経験 設計事務所にて設計業務に11年					

② 建築デザイン実習Ⅱ					
担当教員	野口 信彦		実務授業の有無	○	
対象学科	建築デザイン科	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	48時間
授業概要、目的、授業の進め方	今まで学習してきた建築計画・設計の、考え方、デザインテクニックなどの集大成としての個人作品の制作 1. テーマにもとづいたイメージの考え方や作成の手順を説明する。 2. 条件と制約に則した設計の進め方の再確認させる。 3. 説明～課題演習～チェック～フィードバックを繰り返すことで作品精度を上げる。 4. 最終的にオリジナルプランを作成し、プレゼンを行う。				
学習目標 (到達目標)	卒業制作の最終段階として、主にプレゼンテーション的なブラッシュアップを図ることを目指す。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	プリント等				
NO.	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	タイトル・コンセプト ①タイトルの明確、再考。 ②コンセプトの整理	各工程ごとに、説明、解説を行い、進捗と精度の確認をする。プレゼン発表までは個別作業が中心のため、各課題項目ごとのスケジュールやクオリティの管理は実施行う。 目標：作品の工程管理、精度ができています 準備学習：教科書、配布プリント、ネット上の情報の学習			
2	コンテンツのレイアウト ①レイアウトの明確、再考。	各工程ごとに、説明、解説を行い、進捗と精度の確認をする。プレゼン発表までは個別作業が中心のため、各課題項目ごとのスケジュールやクオリティの管理は実施行う。 目標：作品の工程管理、精度ができています 準備学習：教科書、配布プリント、ネット上の情報の学習			
3	コンテンツ ①コンテンツの作りこみ	各工程ごとに、説明、解説を行い、進捗と精度の確認をする。プレゼン発表までは個別作業が中心のため、各課題項目ごとのスケジュールやクオリティの管理は実施行う。 目標：作品の工程管理、精度ができています 準備学習：教科書、配布プリント、ネット上の情報の学習			
4	最終提出 ①プレゼンボードのまとめ	各工程ごとに、説明、解説を行い、進捗と精度の確認をする。プレゼン発表までは個別作業が中心のため、各課題項目ごとのスケジュールやクオリティの管理は実施行う。 目標：作品の工程管理、精度ができています 準備学習：教科書、配布プリント、ネット上の情報の学習			
5	プレゼンテーション ①プレゼン資料の作りこみ	各工程ごとに、説明、解説を行い、進捗と精度の確認をする。プレゼン発表までは個別作業が中心のため、各課題項目ごとのスケジュールやクオリティの管理は実施行う。 目標：作品の工程管理、精度ができています 準備学習：教科書、配布プリント、ネット上の情報の学習			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
チラシ作成課題の課題評価点数に加え、通常の授業態度などを加味して総合的に判断します。 課題評価60% 期限内での提出30%、授業態度10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(50点以下)とする。		2年間の集大成として、しっかりと取り組ませる。 テーマや、コンセプトについては必ず、担当教員との話し合いで決定させ、情報精度を上げて精度を高める。 個人作業になるため、進捗管理と個人指導等、スケジュール管理に留意する。 課題の評価はプレゼンを行い他人からの評価も加味する。			
実務経験教員の経験 設計事務所にて設計業務に11年					